



平成 27 年 2 月 4 日

各 位

会 社 名：富士石油株式会社
 代表者名：取締役社長 柴生田 敦夫
 (コード番号：5017 東証第一部)
 問合せ先：総務部 IR・広報グループ 岩本 巧
 TEL：(03) 5462-7803
 (URL <http://www.foc.co.jp>)

業績予想ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、以下のとおり、平成 27 年 3 月期通期連結業績予想ならびに 1 株当たり配当予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 27 年 3 月期通期連結業績予想 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成 26 年 11 月 5 日発表)	727,000	2,400	1,800	1,300	16.87
今回修正予想 (B)	670,000	△21,000	△19,000	△19,000	△246.55
増減額 (B - A)	△57,000	△23,400	△20,800	△20,300	
増減率 (%)	△7.8	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	702,942	△7,817	△10,112	△11,897	△154.39

修正の理由

前回予想 (平成 26 年 11 月 5 日発表) 以降の原油価格及び為替レートの変動等を勘案し、通期の業績予想を修正いたします。

今回の修正見通しでは、原油価格 (ドバイ原油) を第 4 四半期平均 50 ドル/バレル (前回予想同 95 ドル/バレル)、為替レートを第 4 四半期平均 120 円/ドル (前回予想同 110 円/ドル) といたしました。

売上高は、第 3 四半期以降の原油価格の大幅な下落等により、前回予想比で 570 億円の減収となる見通しです。

損益につきましては、原油価格の急激かつ著しい下落に伴う在庫影響の悪化等により、営業利益、経常利益、当期純利益とも上記のとおり前回予想比で大幅な減益となる見通しです。

なお、在庫影響を除いた実質ベースでは、原油価格続落局面において製品価格の先取り値下がり (いわゆるタイムラグ) が発生したことや化成品市況下落などのマージン悪化要因はあるものの、原油安に伴い、販売価格が原料炭価格に連動する石油ピッチの採算の改善や自家燃料費の低減が見込まれること等から、下記のとおり営業利益は前回予想より黒字幅が拡大し、経常利益も円安に伴うドル建資産の為替評価益の拡大等により、さらに増益となる見通しです。

【在庫影響（※）および在庫影響を除いた利益相当額（通期）】

（単位：億円）

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	△8	△260	△252
在庫影響を除いた 営業利益相当額	32	50	18
在庫影響を除いた 経常利益相当額	26	70	44

※総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

2. 配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭
前 回 予 想 (平成26年5月8日発表)		6.00	6.00
今 回 修 正 予 想		未定	未定
当 期 実 績	0.00		
前 期 実 績 (平成26年3月期)	0.00	5.00	5.00

修正の理由

当社は、株主各位への利益還元を重要な経営課題のひとつと考えており、中長期的な事業発展のための内部留保の充実に留意しつつ、業績及び資金バランス等を勘案の上、安定的な配当の継続に努めることを基本方針としています。

しかしながら、当期の業績は上記業績予想修正のとおり、大幅な下方修正が見込まれること、他方でこの先の原油価格の動向は著しく不透明であり、原油価格の動向次第で業績も大幅に変動する可能性があること等を勘案し、当期末配当予想につきましては前回予想（平成26年5月8日発表）の1株当たり6円から未定とし、最終的には当期の業績等を踏まえて決定することといたします。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。実際の業績は、様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以 上